

教材名

「ひとふみ十年」【出典:「5年 生きる力」日本文教出版】

主題名:自然を守る力【D-20 自然愛護】

- 1 日 時 令和6年5月30日(木) 6校時目
- 2 学 年 第5学年 4名 第6学年 4名 計8名
- 3 ねらい 主人公に自分を重ねて考え、話し合うことを通して、自然の偉大さを理解し、自然を愛する心情を育てる。
- 4 主題設定の理由

教材観

第5学年及び第6学年の指導内容D-(20)は、「自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。」を基に設定した。

本来、人間は日常の生活の中で自然からの様々な恩恵を受け、自然との調和を図りながら生活を営んできた。しかし、ここ数十年の間、発展を求めすぎるあまり、無制限な開発による自然破壊や生態系の混乱が問題視されている。今や人間社会と自然との調和を図っていることは不可欠となった。そこで、動物や植物を愛護することにとどまらず、自然破壊を自分の生活との関連の中で考えさせることで、自然環境を保全することの大切さを理解し、自然環境全体に対する豊かな情操を養い、環境を保全しようとする態度を高めさせようとする教材である。

児童観

指導観

指導に当たっては、雄大な景色を見ている勇の心情やチングルマを見たときの勇の感動などから、人間と自然、人間と動植物との関わりを考え、自然を守り、大切にしていこうとはどういうことか(自然との共生)について児童の多様な考えを引き出したい。勇の心情が読み取れる主要場面(チングルマの年輪を見たとき)から、道徳的価値(自然愛護)に迫りたいので、「マッチ棒の大きさになるまでに、十年以上もかかる・・・」について触れる発言者が出なかった場合は、問い返しとして、「松井さんから『ひとふみ十年』という言葉聞いて勇は、チングルマにどんな思いを持ったのか。」とさらに発問し、自然の雄大さ、神秘さについて考え深めさせていく。

終末部では、対話場面を設定し、全体での振り返りの共有を図っていく。「自然を大切にしたいと思うことがあるのか。」を出し合うことで、自然愛護に関わるこれからの自分の有り方についても考えさせる。

5 本時の展開

(1) 評価について

【評価の観点】「ひとふみ十年」について松井さんから聞き、自然の偉大さに驚いた勇の気持ちをとらえている。

【評価の方法】発言・道徳ノート

(2) 準備物

挿絵、マッチ棒

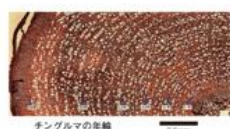
(3) 展開

	学習過程	主な発問と予想される児童の心の動き 【○基本発問 ◎中心発問】	指導上の留意点(○) 準備物など(●) 評価(★) 対話場面(△)
導 入	①「学習テーマの提示」 1 本時の学習への興味や関心を高める。	○どんな時に自然の素晴らしさを感じますか。 【日常生活とのつながり】 ・美波羅川で魚が泳いでいるのを見たとき。 ・植物が大きく育っているとき。 ・四季折々に、山々が紅葉するとき。 ・岡田山の頂から景色を見たとき。	○自然の偉大さ、神秘的な力などを思い起こさせながら、本文につなげていく。 ○様々な意見を出し合えるような雰囲気を作る。
展 開	②「追求活動」 2 教材「ひとふみ十年」の内容を知り、話し合う。	○勇は山々を仰ぎながら、どんなことを思っていたでしょう。 ・美しい風景だなあ。 ・心が癒される風景だ。 ・自然の力はすごいなあ。 ・空気がおいしい。 ○チングルマの茎を見て思わず大きな声をあげた勇は、どんなことに気付いたのでしょうか。 ・小さな花が集まって咲いているので、感動した。 ・花の一つ一つに命が存在していることのすばらしさ。 ・厳しい環境に生きている花の逞しさ。 ・小さな花たちも雄大な大自然を築き上げている一員であることに心打たれた。 ◎チングルマの年輪を見た勇は、どんな思いを持ったでしょう。 ・僕より長く生きている。すごいなあ。 ・植物の生命力というのは、偉大だ。 ・僕は、今まで、自然を無意識のうちに粗末にしてきたのかもしれない。 ・一度踏みつけただけで、元に戻るまでに十年もかかるなんて大変だ。 ・なんとも思わずに自然を傷つけていたのかもしれない。 ・自然を守るためにできることから始めよう。	○雄大な自然に圧倒される勇が山々の美しさに心打たれ、人間の力に及ばない自然の偉大さに驚き、感動していることをとらえさせたい。 ○自然界の不思議さや神秘性に触れた勇の姿から、それらをさらに大切に保全していくことについて考えさせる。(道徳ノート) ○小さなチングルマの姿から想像できないほど、その成長には長い年月が流れていること、そして、太陽に向かってたくましく堂々と生きる姿から、自然を大切にし、自然環境を守っていこうとする心情を高める。 ○「マッチ棒の太さになるまでに、十年以上もかかる・・・」について、発言者が出ないときには、問い返しとして、「 <u>松井さんから『ひとふみ十年』という言葉も聞いて、勇はさらにチングルマにどんな思いを持ったのか。』と発問し、自然の雄大さ、神秘さについてさらに考えを深めさせる。</u> ●マッチ棒を一人ずつに渡す。 ★自然の偉大さを感じ取るとともに、十分な思慮や節度を欠いていた自己を振り返り、自然や動植物とのかかわりについて、改めて考えることができたか。(道徳ノート、発言)

終末	③ 「児童一人一人のふりかえり」 3 本時の学習から自分たちの生活について振り返る。	○自然を大切にしたいと思ったことはどんなことがあるのか、今までの経験を通して考えてみよう。(ペア学習設定) ・美波羅川のごみを撤去したいと思った。 ・川西の自然を守っていこうと思った。 ・環境が破壊されているニュースなどを見て、環境保全の大切さを考えた。 ・地球温暖化にならない方法を考えたいと思った。 【日常生活とのつながり】	○自然環境の保全に対する自身の経験や体験を想起させ、自然愛護に関わるこれからの自分の有り方について考えさせる。 △ペアでの対話場面を設定する。 ○吉武の滝に自生する希少植物「ハナイカダ」について触れる。
-----------	--	---	--

6 板書計画

- ・ ○自然を大切にしたいと思ったこと
- ・ 美波羅川のごみを撤去したいと思った。
- ・ 川西の自然を守っていこうと思った。
- ・ 環境が破壊されているニュースなどを見て、環境保全の大切さを考えた。
- ・ 地球温暖化にならない方法を考えたい。



- ・ ◎チングルマの年輪を見た時
- ・ 僕より長く生きています。
- ・ 植物の生命力というのは、偉大だ。
- ・ 自然を無意識のうちに、粗末にしてきたかも。
- ・ 自然を傷つけてきたかも。
- ・ 自然を守るための取り組みをしよう。
- ・ 一度踏んでしまうと十年かかるとは。



- ・ ○チングルマの茎を見て
- ・ 思わず大きな声をあげた時
- ・ 小さな花も、すごいな。
- ・ 花の一つ一つの生命だ。
- ・ 花がたくましく咲いている。
- ・ 自然の美しさだ。



- ・ ○山々をあおいだ時
- ・ 美しい風景だなあ。
- ・ 心が癒される風景だ。
- ・ 自然の力はすごいなあ。
- ・ 空気がおいしい。



皐月・三十日(木)
自然を守る力
③ひとふみ十年

事後研修のまとめ

1 授業者の振り返り

①発問の検討（発問を絞り込んでいたか。問い返し発問が適切であったか。）

- ・チングルマの茎を見ての勇の気持ちを話し合わせるのではなく、チングルマの年輪を見た勇の心情のみを話し合わせる方がよかった。

②対話場面の設定が有効であったか。

- ・「自然を大切にしたいと思ったことはどんなことがあるのか。」をペアトークで話し合わせたことは有効であった。それぞれで生活を振り返ることができた。

2 成果

○主体的に付け加えて発言し、自分の考えを深める児童がいた。

○8人中5人の児童が、日記に道徳について書いており、授業を振り返っていた。自然愛護、環境の保全について記していた。

3 課題

- ロールモデルとしての6年生の姿を、5年生に見習わせるのがよい。
- 主発問（中心発問）だけで、45分間授業を進行させてもよかった。
- 時間設定するのではなく、自由にペアトークさせてもよかった。
- 立山連峰の動画視聴や、「ぐっと深める」の補助資料を使用することも可能であった。

